令和５年度第２回名取市市史編さん委員会　会議録

日時：令和５年 12 月７日（木）　午後３時～午後４時 30 分
場所　仙台法務局名取出張所２階　会議室４
出席委員：我妻諭委員長、瀧澤信雄副委員長、惠美昌之委員、笠原信男委員、菅野正道委員、千葉正樹委員、藤澤敦委員、相澤秀裕委員、江田佳子委員、太田良一委員、奥山浩二委員、山田よし子委員
事務局：齋藤正光教育部長、中島千鶴子市史編さん室長、浅見智彦課長補佐、遠藤晶乃主幹兼係長、鳥居建己市史編さん専門員、劉明達市史編さん専門員

市史編さん室長
開会あいさつ

事務局
名取市市史編さん委員会設置要綱第５条第１項の規定によりまして、議長は委員長が行うこととなっておりますので今後の議事については我妻委員長の進行となります。

委員長
早速議事に入ります。事業報告と事業計画ということですが、一括で説明を受けたいと思いますのでよろしくお願いします。事業計画を事務局から説明していただき後、各部会の報告も部会長さんからお願いします。

事務局
中身に入る前に、前回の編さん委員会でお話をさせていただいた件が何点かございました。まず交通費の支給に関して、源泉徴収の金額からの差額が発生した件についてです。お知らせしていましたが、来年 12 月より、金額をさかのぼって修正します。該当する委員の方には、差額をお支払いし、源泉徴収をさせていただいた分、手続きは済ませました。また、源泉徴収票が令和４年の分に修正入った方も数名いましたので、その方にいても、修正したものをお送りしました。もう１点、保険についてです。ケガをした場合の保険は、皆様も含め、調査員、臨時の方も含め、すべて７月よりかけています。さらに天災に係る部分の保険をかけました。
では市編さん令和５年度の４月から 11 月の事業報告をご覧ください。市史編さん委員会が今年５月、２回目が今日行われております。市史編さん専門委員会は４月、10 月に行いました。市史編さん専門部会につきましては、部会ごとに市内を巡ったり、個別で調査に当たったりしています。調査は続いていますので、こちらは各部会で順調に進めていただいています。
続いて情報発信の部分で、『広報なとり』での記事の掲載は通常通り行っています。昨年度から始めた取り組みとして、市史企画展「私たちの名取市史」を歴史民俗資料館で３ヶ月にわたって行いました。こちらは、どうやって市史を作っていくのかというような内容です。合わせて講演会も７月 13 日に開催しました。講演会には 121 名のご参加をいただきました。河北新報、読売新聞、ケーブルテレビの J:COM が取材に来られましたので、だんだん浸透していけばいいと思っています。
今後の事業計画です。専門部会は個別に予定を立てて進めていくところです。１月に大きな調査である笠島廃寺跡の測量調査を行います。本年度の部会でも話し合ったところですが、９月の補正予算で予算がつきましたので測量調査を行います。同時に、中世部会の縄張図の作成も進めております。笠島廃寺跡では測量調査が終わった後の３月頃に、試掘調査を行いたいと思います。
今後、講演会が２つあります。両方とも共催で行うものですが、２月には近世部会の貞山運河に関連する歴史セミナー、３月には原始・古代部会の堀裕先生の一切経についての講座を行います。

委員長
専門部会の方から報告をお願いします。

原始・古代部会長
部会は 6 月 29 日に開催し、執筆分担の大枠を決めました。構成も議論の上で決めたところです。まだいくつか調整点が残っていて、今後、それを細かく検討していくことになります。
また、考古資料を市史に使うにあたり、色々と整理する必要があるので、調査員２名の方を中心に出土遺物等の資料をまとめる作業をしてもらっています。12 月あるいは、調整次第によっては年明けになるかも知れませんが、2 回目の部会を開催し、進捗状況を確認したいと考えています。
今年度の大きな事業として、戦後すぐの頃に東北大学に当時いた方が調査した笠島廃寺跡があります。その後、全く調査されておらず、実態が良く分からないという状況です。測量と主要な施設の位置を確定させるような調査を行います。以上です。

委員長
続きまして、中世部会。

中世部会長
中世部会と近世部会の両方を報告します。中世部会は、6 月に市内の淡路山館跡という、遺跡の発掘調査を見学しました。また、10 月上旬、市史編さん室に借り出してもらった、熊野神社に伝わる中世文書、近世文書の調査をしました。
今後は、先ほど事務局からあったとおり、12 月と 1 月に下見をした上で、川上大館の縄張図を作成します。縄張図作成は、東北学院大学の竹井先生が作業を行う予定です。竹井先生の学生さんにもお手伝いいただき、恐らく２～３日で出来る見込みです。基本的には毎年度 1 か所ずつ市内の山城の縄張図を作る作業を冬期に進めていきたいです。
またそのほか、編さん室にお願いをしていますが、岩沼市史、仙台市史に掲載した中世の名取郡関係の資料を、使いやすいように入れ直し、部員で共有したいというふうに思っています。

続いて近世部会について報告します。
近世については、前回の委員会でもお話しましたが、名取市域に関する近世の古文書がまだまだ不足している現状です。その辺を市民の方々にアピールしたいです。このような考えのもと、市史に関する講演会を年 1 回程度開催していますので、１回目は、近世部会で手を挙げました。佐藤部会長と私とで、近世の名取市域の全般の概要ということでお話しました。その効果かどうか、近世の資料がすこしずつ集まってきているようです。ただ、まだ何千点といったまとまった量ではありませんので、いったアピールをやったり、市内を歩き回って新しい古文書を掘り起こしたりしていきたいです。
一方、県内あるいはいろんな公的機関で作った歴史資料の目録を部員で手分けして、名取市域に関係するものをピックアップしていくという作業を開始います。この部分は始めたばかりですので、資料に載っておりませんが、そういった作業を始めたところです。
また、年が明けた 2 月 23 日、貞山運河ネットという民間の団体があり、今年から、年 1 回程度の歴史セミナーの開催をしたいということで、今年 2 月に仙台市内で、貞山運河の歴史について私がお話をしました。その第２弾をやりたいということでしたので、貞山運河に関わりの深い閑上がある、名取の市民にお示ししたいということで、教育委員会と共催というよう形で講演会を開催することになりました。以上です。

委員長
次に近代・現代史部会は部会長不在なので、事務局からお願いします。

事務局
近代・現代部会長に代わり事務局から報告します。令和 5 年度、これまで 2 回部会を開催しました。第 1 回が 6 月 7 日に開催し、岩沼市史などを参考に、専門委員の方々の執筆分担また構

成について協議いたしました。大まかな執筆分担、巻の構成が定まってきましたので、10 月 3 日に第 2 回の部会で、各自の担当でどのような資料が必要かを協議しました。
資料調査に併せ、市内での調査活動を始めていただいています。特に名取市の場合、本庁舎 1 階の書庫に、明治の合併前の旧村の公文書が揃っておりますので、そちらを用いながら、各自が調査を進めています。これ以降の計画については、部会の開催を 12 月、あるいは年明けになるかもしれませんが、開催したいということで話し合っています。主な内容として、各自が進めている資料調査の報告、進捗報告をすることになっています。
調査は、オーラルヒストリーということで予定を組んでいます。これは市内の商業や農業など各分野で活躍された方、また、市役所で行政に携わられた市職員ＯＢなどからお話を聞いて歴史というものを再構成していくものです。近代・現代部会にはつきましては主にこういったところで今年度進めております。以上です。

委員長
名取熊野部会。

名取熊野部会長
8 月 10 日に名取熊野部会を開催しました。部会としての方針を検討しました。その結果、文献等の歴史的視点、神社所蔵の宝物や奉納品、発掘出土品などの考古学的視点、祭礼や伝統芸能といった民俗的視点、この３つの視点に分けて取り組んでいくということにしました。その上で専門委員の先生方の分担を決めました。
名取の熊野三社に関しては、今までバラバラな形で紹介や調査報告がなされていたケースが非常に多かったのです。このあたりを整理し、さらに、これまで報告されていない部分もすべて拾って現況を正確に報告したいと考えています。
名取熊野部会ではこれまで、中世部会との合同で熊野霊域内にある館跡等の調査、熊野神社の秋の例祭の調査、那智経塚の踏査、下余田熊野三社の名取老女のお墓という伝承の地も含めた調査を行いました。
次の 6 年度の活動のこともあるので、本年度内に名取熊野部会をもう 1 回開催したいと考えています。部会開催に向け、事務局とのすり合わせを行っていきたいです。以上です。

委員長
ありがとうございます。民俗・地域誌部会お願いします。

民俗・地域誌部会長
4 月に今年度の 1 回の部会を開催し、調査をするにあたって、専門部員との間で確認事項等を整理しました。その後、各地域誌を担当する専門部員が決まったので、そのあと、それぞれ担当する地域に入って調査をしています。5 月と 6 月に民俗調査に入っていますが、詳細は民俗・地域誌部会の資料をご覧ください。
11 月に今年度の 2 回目の民俗・地域誌部会を開催しました。今年度の調査の改良点や改善点を話し合いました。部会として石碑をどう扱うかを検討しました。私は高舘地区の地域誌を担当しており、その指針を得たいということで、試みの調査を高舘地区に限定し、近世以降の石碑調査を行いました。
成果として、高舘地区の石碑分布図、石碑の制作年代分布表を用意しました。部会として、石碑を系統的に扱っていくべきだという結論に至りました。地元にある一基の石碑から日本近代史が垣間見える。そうしたものも子どもが歴史に親しむきっかけになるのではないかと考えています。
あと、今年は熊野神社の創建 900 年ということで、名取熊野部会長からも報告ありましたが、普段、見られない湯の花の行事、そして、数年おきにしか行われない巫女舞、それらの撮影を行っております。データは市史編さん室で保管しています。以上です。

委員長
ご報告ありがとうございました。質疑、意見があったら挙手の上でお願いします。

委員
石造物の研究をしています。先日、本郷地区に行った時、偶然、芦名家の方に会いました。その方が「芦名家が忘れられている気がする」「市史にも芦名の名が出てこず、取り上げてもらえない悔しさがある」と言うのです。新しい市史で、特に名前を出してくださいということではないですが、少しでも市史に載っていれば、先祖様も安心されるのかなと思います。

民俗・地域誌部会長
私のほうから担当の専門部員に情報共有させていただきます。

中世部会長
今の話だと、芦名の一族で針生という家があって、それが伊達政宗に付いて来て江戸時代の半ばに、針生はもともと芦名の分家なので姓を芦名に戻すのです。本家は石越の方に屋敷を持っているのですが、本郷にも領地を持っているのか、あるいは分家筋なのか、そのあたりは近世部会の関係でもあるので、気をつけて見ていきたいと思います。
何度も言って申し訳ないですが、近世、江戸時代関係の古文書がまだまだ足りない状況です。名取市域にどういう仙台藩士が屋敷を持っていたとか、領地を持っていたのか、部分的に分かる資料はあるのですが、トータルとしては見きれていないので、その点は近世部会の課題として注意をしていきたいと思います。

委員
原始・古代部会の関連についてです。笠島廃寺跡の測量調査で良い成果が出るように期待しています。また、共催事業の新宮寺一切経関連の講演会に一般市民は参加できるのでしょうか。

事務局
一般の方も参加できます。

委員
６年度の共催事業の中に東北関東前方後円墳研究会宮城大会というのがありますが、どんな団体と共催するのでしょうか。

原始・古代部会長
東北関東前方後円墳研究会という団体があり、そこで毎年１回、東北・関東地区の管内持ち回りで研究会を開いています。その年ごとにテーマを決めてやっていまして、来年は名取市でやることになりました。宮城県で開催するなら古墳が集中している名取市でやりたいということで、名取市で開催することになりました。一般の方にも聞いていただけるような講演会もありまして、共催について今、関係する方々と調整しています。

委員
中世部会に関連して質問します。川上大館の縄張図を作成後、高舘城跡の踏査を行うようですが、高舘城跡の縄張り図は作成するのでしょうか。

中世部会長
はい。追々作成していきます。川上大館、高舘城跡など３、４か所ぐらいは作成できそうところがあり、縄張図は毎年１か所ずつ作成する予定です。中世は刊行が少し後になりますので、1年に１か所ずつ作成したいと考えています。高舘城跡は結構大きいので最初に川上大館で少し手慣らしをして、慣れてきたところで高舘城跡をしっかり取ろうというふうに考えました。

委員
文書（もんじょ）が不足しているということですが、これから新しい文書が出てくる可能性はあるのでしょうか。

委員
何とも言えないです。急に出てくることもありますので、そこは期待するしかないです。今、あちこちの図書館とか資料館に所蔵されている資料で、名取に関わるものをとりあえず全部集めてみようということを、部員で手分けをして行っています。そういうところから出てくる情報が意外と前の名取市史には活かされていませんでした。そういった努力を重ねていく必要があろうかと思います。

中世部会長
近世部会としても座して待っているというつもりはなく、盛んに出て歩きたいと思っています。ちょっと遅れていますが、今年度の終わりか、来年度には、もう少し市内をもっと回るようなことを、近世部会としてやっていきたいと思います。

委員
近代・現代部会についての意見です。オーラルヒストリーがありますけども、聞き取り関係で調査することは、文字資料だけでは発見できない部分もあるので、これは大変重要だなと思います。これからだんだん、しゃべれなくなるご高齢の方もいると思うので、調査を進めてほしいと思います。

委員長
質問がなければ、6年度の主な事業予定について事務局お願いします。

事務局
大きな事業についてのみお話します。名取熊野部会で熊野那智神社の北側にある那智経塚群の測量と試掘を予定しています。全国的にも大変珍しい貴重なものと伺っております。こちらを測量することになっています。
来年度はそこに力を割くということになりました。したがって古参道の調査というのはなくなりました。また名取熊野部会で、和歌山県に行きたいという要望があったことから、紀州熊野三山に資料確認の調査を予定しております。人数は多くは行けませんので、3名ということで予算を計上しています。
令和6年度については、主に名取熊野部会に注力を注ぐということになります。昨年度は、原始古代に注力したように、毎年一つずつの部会に、力を注ぐことになります。例えばお金がかかるようなものについては、一遍にやるというのではなく、1年間に1部会で実施するという形でやっていきます。
他の部会でも、引き続き調査を進め、来年は発刊が令和8年度の一番早い原始古代部会につきまして資料の整理とまとめに入りたいと思います。その他の一般的な広報事業としましては、主催の講演会も予定してございます。また、先ほどお話ございました共催の講演会についてはお話いただいておりましたので、進めていきたいというところで考えてございます。
会場は未定ですが、企画展も開催し、市民の意識の高揚を図りたいと考えています。事務局からは以上ですので、先生方から補足がございましたらお願いします。

委員長
なければ、皆様から今の6年度の予定について、ご質問とかご意見はございますか。

委員
特に熊野関係で、考古学の分野でデータが散漫です。まとまっているのは大門山の発掘調査ぐらいで、ほかはバラバラです。経塚、板碑、供養塔、それからいろんな関連遺跡、熊野古道については断片的に残っているので、それらをプロットして全体的な図を作って、あとは、ある程度の部分は写真で示していくという格好で、熊野古道との関係を示そうと考えていました。
それと、経塚も同じなのですが、那智山のところだけでなく、他の3か所の本宮、新宮の方の分布図なども全体的に作る。もう一つは館跡なども結構ありますので、それの表示をちょっと工夫していく必要があると思います。

委員
はい。高舘地区以外でも石碑調査をするのか、というお尋ねでしたが、11 月の２回目の部会でも確認しましたが、他の地域でもかなり有効な成果が得られそうだということで、来年度は共通の重点項目として部会として調査をすることになります。

委員
石碑調査に関連して、この表を見てすごく面白いと思いました。仙台市内のものとも少し違うし、恐らく山手と、増田、館腰、下増田あたりでは全然違っているのかなと思います。欲を言えば、これは恐らく合併前の館腰地区、増田地区、高舘地区という格好なのだと思いますが、やはり、大字とか江戸時代の村単位でこういうもの見ると、小型の山の神碑は村単位に一つぐらいずつあるとか、そのようなものなど、色々なことが読み取れると思います。

委員長
その他、6 年度の事業予定について何かご意見とかありますか。

委員
先ほど、名取熊野部会からの報告で板碑の調査をされると聞いたのですが、民俗・地域誌部会との関係で板碑をどのような手法で記録化するか教えて下さい。

名取熊野部会長
まず大門山で言えば、中核になる２つの大型板碑は、拓本があるのですが、昔に取ったもので、変色して使えないので、新たに取り直します。中心的なものの拓本は取り直します。それから文永年間の板碑の関係も重要なものは取り直し、拓本と実測を取っていきます。とはいえ全部の拓本を取ることはやれないので、そこは調書なり諸々の表を作ります。注釈なりで対応する部分が結構あると思います。主要なものはとにかく拓本と実測をする予定です。

委員
仙台市史の時は写真を撮って、拓本を取って、実測図をとって、おまけにビニールを張った実測のようなことをやっていました。その時は 600 点やったのですが、名取市内で同じことはとてもできないので、言い方が悪いのですが、名取熊野部会で高舘熊野堂地区をどういうふうに調査するのか試行錯誤していただきたいです。
名取熊野部会で板碑を担当されている方が、いずれ名取熊野部会が終わったら、恐らく中世部会に入ってきて、東側などをやらなければならないと思っています。少し気をかけていただいて行動していただきたいです。そして、今は昔のように拓本だとか実測でなくても、ライティングして写真を色々撮って、電子拓本というやり方もあります。編さん室でも電子拓本の技術を会得している方がいると聞いています。そういうところも活用し、省力化しながらでも、きちんとしたデータを残すことを十分考えていきたいというふうに思っています。

委員
私も同じこと同じことを考えていまして、電子拓本の技術は今かなり技術が進んでいます。奈良文化財研究所の方で技術公開していますから。それをぜひ進めていただければ、これまでに比べてみると格段に楽に取れると思います。

委員長
その他に皆さん何か発言ございますか。

委員
名取熊野部会の 6 年度の計画の中で、紀伊熊野現地調査というのがあるのですが、これは本当に重要なことだと思うのですが、これは事務局で予算の確保をしているのですか。

事務局
こちらについては、3名分の予算について今回要求をあげております。これから市長部局で調整をしてもらう予定です。

委員長
そのほかになければ、次の「資料集の発刊について」に移ります。説明をお願いします。

事務局
資料集の発刊ですが、ある程度まとまった資料については、発表公開することが当然望まれることになります。ただし、資料編の刊行は計画には含まれておりません。こういったところから記述の元になる資料を何らかの形で公開できないものかという要望が、各部会の先生方から事務局に寄せられている現状です。
市史編さん室で検討した結果、本編５巻とは別に100ページほどの冊子を資料集として、刊行する案を考えました。
この案を10月17日の専門委員会で協議していただいたところ、本編とは別のスケジュールで資料集を編集・刊行することは、市史編さん室の現状を踏まえると、かなり難しいのではないかというような結論になりました。さらに、資料集なので1冊のみの刊行で終わりではなく、2集、３集、４集と重ねて出すことが必要になりますが、それは市史編さん室の体制では厳しいとの意見も出ました。
それらの意見を基に編さん室で再検討したところ、本編に付属する「別冊付録」という形で刊行すれば、編集のマンパワーや印刷にかかる経費等は本編に含まれるので、可能だという考えにまとまりました。これはまだ、事務局の当座の案でして、次の専門委員会に提示しまして、ご協議いただいて、その結果をまたこちらの委員会で報告して結論を出していきたいというふうに考えております。
専門委員会へお諮りする前に、今ここで皆様からご意見とかご要望とかそういったものがございましたらぜひお示しいただきたいと思います。

委員長
ただいま資料集の発行について、事務局の考え方が示されました。皆さんの方からご意見ございましたらご発言をお願いしたい。（発言無し）

委員長
今日、事務局案が示されましたのでで、またもう一度、これを専門委員会で揉んでもう一度、市史編さん委員会にかけるということです。この場では事務局のお話を受けたということにします。

委員長
その他ですが、自然の取り扱いについてお願いします。

事務局
自然の扱いについてご説明申し上げます。前提としまして、近年の自治体史編さんでは自然に特化した巻を刊行するということが、しばしば見られます。それを踏まえ、５月の市史編さん委員会で、「自然と暮らしという巻が予定されているが、動植物や生態系について収載されるのか」という質問が出されました。
今回は５巻という巻数と制作年限が限られ、「自然と暮らし」におきましては、「暮らしに関わる範囲での自然」、例えば名取市の暮らしを特徴づけるような自然環境や、暮らしの中でどのように自然が利用されているのか、という視点での取り扱いというところを想定しております。

委員長
これについて、皆さん方からご意見ございますか。（なし）

委員長
これにつきましても一応、今回は事務局の考え方を受けたということにいたします。

委員（教育長）
今日の話の中で古文書が不足しているというお話がありました。委員の中に農協の方や、商工会の方がおられますが、例えば、代々続いている農家の方とか、かなり昔から商売をやっている旧家とかがあると思いますが、そういったところに「何かないですか」と呼びかけていただいたりすることは可能なのでしょうか。

委員
声をかけてみます。

委員
杞憂かもしれないのですが、今の編さん体制で果たして進めていけるのかと心配しています。
私は相馬市史にも関わってきたのですが、相馬市では、有能な嘱託職員さんがいらっしゃっていろいろ支えていただきました。
名取の事務局から専門員が１人を抜けたこともあり、編さん室の人的負担が過重になるのではないかと懸念を持っています。
つまり、専門知識を持っている嘱託職員をしかるべき待遇でお迎えするようなことは考える必要があるのではないかというのが１点。残りのもう一つが、編さん事業は、長く続くもので、仙台市史に携わっている時に思ったのですが、編集長に当たる方がずっといらっしゃいました。それが大変良かったわけですが、名取市史ではそれが可能なのでしょうか。正規職員の方が２～３年でグルグル変わっていくようだと、果たしてやっていけるのかどうか不安もあります。
そのあたりでどういう体制で今後進めていくのかについては特に副市長のお考えなどをお伺いしたいと思います。

委員長（副市長）
即答は難しいです。

委員
人事のことなので市役所としてはナーバスな問題です。恐らく副市長も簡単には答えられないかと思います。名取市の場合は課長、その下に補佐、係長がいる。このうちのどなたかが長くやっていただけるような体制があるといいです。
委員、あるいは地域の方との繋がりという意味では、2～3 年で編さん室の担当職員の方が変わると、1 から色々なことがやり直しとなります。再度、説明をしたり、それはなかなか辛いところです。その辺を人事の問題ですのでちょっと言いにくいのですが、我々としては、なるべくそういうところもご配慮いただきだいです。

仙台市が２７～２８年間、編さん事業やっている中で編さん室長は、私の前任が約 20 年やっていました。私は 18 年間、やっていました。編集長が正規職員かどうかは、いろいろなやり方があると思います。ただ、２、３年後に刊行が始まると、本編で 500、600 ページ、あとは資料集で 100 ページ、というのはかなりヘビーな仕事。市役所の各部署でも年報などの冊子を作りますが、また違う問題がたくさん出てくると思います。
多いと 10 数人の委員の方から原稿をいただくことになれば、いろいろな問題が出てきます。まだ本を作るまでには若干の余裕があるので、今のうちに体制を整えておくことが必要だと思います。名取市としても、せっかく新しい市史を作るのですから、自慢できるようないいものを作りたいと、我々も思っています。その辺の体制づくりをぜひよろしくお願いしたい。

ただ問題は、今、日本史を専攻する大学院生がすごく少なくて人材不足なのです。本当になか

なかいい人材が取れない。そんな中で、やっぱり相応の待遇というものをお考えいただけないと、質的なものも担保できないというところあります。いろいろご配慮いただければならない。今の編さん室は少人数で、本当によくやっていただいています。逆にこっちからオーダーするのが申し訳ないぐらいです。さっきも言ったように専門員１人減で、事務職員も欠員のような話を聞いています。その中で今いらっしゃる職員の方に負担がかかっているのではないか、と我々もすごく心配しています。

委員長
その他ご発言がないようでしたら進行を事務局にお返しします。

閉会